

川崎市のリスクコミュニケーションに係る取組

1 川崎市の取組

- ・川崎市化学物質に関するリスクコミュニケーションを進める会
- ・川崎市「化学物質と環境」セミナー
- ・神奈川県公害防止推進協議会（神奈川県、横浜市、川崎市）化学物質問題検討部会における取組（平成19年度）

2 川崎市化学物質に関するリスクコミュニケーションを進める会

(1) 発足の背景

川崎市における化学物質の排出量、環境濃度及び環境リスクあるいは事業所の取組などについて市民、事業者及び行政が情報を共有し、化学物質による環境リスクの低減のため何をすべきかを検討するなど、川崎市における化学物質に関するコミュニケーションを図る必要があると考え、「川崎市化学物質に関するリスクコミュニケーションを進める会」を発足した。

- ・平成15年度発足

(2) 目的

川崎市における化学物質による環境リスクの低減を図り、より安全で安心して暮らせるまちづくりに寄与するため、その一環として、化学物質の環境リスクに関する市民、事業者、行政の情報及び意見交換の場を構築し、相互理解を深め、リスクコミュニケーションを推進することを目的としている。

- ・リスクコミュニケーションの場の構築
- ・リスクコミュニケーションの促進に向けた検討

(3) 会の委員

ア 委員構成

- ・市民 5名程度
- ・事業者 5社程度
- ・行政 5名程度
- ・リスク解析専門家 1名
- ・ファシリテーター（司会進行） 1名

イ 市民委員

環境局の地域事業経験者、教員、その推薦者など（一般公募ではない）

ウ 事業者委員

表1 これまでの事業者委員

事業者	年度
新日本石油化学株式会社	H15、H16
JFEスチール株式会社	H15、H16、H17、H18、H19
三菱ふそうトラック・バス株式会社	H15、H16、H17、H18、H19
旭化成ケミカルズ株式会社	H15、H16
株式会社東芝	H15、H16
富士通株式会社	H17、H18、H19
昭和電工株式会社	H17、H18、H19
株式会社スリオンテック	H17、H18、H19

(4) 開催頻度

- ・親会 毎年3回程度
- ・ワーキンググループ 毎年3回程度

(5) これまでの会の活動の概要

リスクコミュニケーションの場の構築

会を市民、事業者及び行政の各主体がそれぞれの立場で、環境リスクの低減に向けた取組みを進める際の情報収集や意見交換、勉強の場とし、事業者委員に依頼して工場見学も実施している。

リスクコミュニケーションの促進に向けた情報発信

事業者にはリスクコミュニケーションの実施の参考にしてもらうため、市民には化学物質に関する理解を深めてもらうため、この会の活動内容をホームページなどで広く情報発信している。

- ・会で実践してきたリスクコミュニケーションの手法について、良かった点や反省点などを整理し、ホームページで情報発信した。(平成18年度)
- ・会の活動を踏まえ、リスクコミュニケーションの普及に向けた市民向け及び事業者向けパンフレットの作成を検討し(平成19年度)、パンフレットの印刷、配布を予定している。(平成20年度)

(6) 会の現状

リスクコミュニケーションの普及に向けたパンフレットの作成という成果が得られたこと、一方で、(P R T R対象の)事業者委員に一般市民とのリスクコミュニケーションの実施を促しているが実現には至らないこと、などの状況から平成19年度をもって会を休止とした。

(7) 課題

(P R T R対象の)事業者委員においても一般市民とのリスクコミュニケーションにはまだ抵抗があり、一般市民とのリスクコミュニケーションの実施には至っていない。

(8) 活動実績

【平成15年度(第1回~3回)】

川崎市からの情報提供

- ・川崎市における化学物質対策とリスクコミュニケーション
 - ・川崎市のP R T Rデータ
 - ・川崎市の環境中化学物質濃度の実態(有害大気汚染物質、ダイオキシン類、内分泌かく乱化学物質)
- ##### 講演
- ・化学物質のリスクコミュニケーションとその事例
事業所における化学物質管理の取組紹介
 - ・新日本石油化学株式会社川崎事業所(代理:旭化成ケミカルズ株式会社川崎製造所)
化学工場におけるレスポンスブル・ケア活動について
工場見学・意見交換
 - ・旭化成ケミカルズ株式会社川崎製造所にて実施

【平成16年度（第4回～6回）】

- 川崎市からの情報提供
- ・川崎市のP R T Rデータ
- ・川崎市の環境中化学物質濃度の実態（有害大気汚染物質、ダイオキシン類）
化学物質に関する市民向けパンフレット（別添）の作成
- 事業所における化学物質管理の取組紹介
- ・株式会社東芝研究開発センター
工場見学・意見交換
- ・J F E スチール株式会社東日本製鉄所京浜地区にて実施

【平成17年度（第7回～9回）】

- 川崎市からの情報提供
- ・川崎市のP R T Rデータ
- ・川崎市のアスベスト対策
環境報告書を読む
- ・昭和電工株式会社、富士通株式会社、三菱ふそうトラック・バス株式会社
会報（別添）の作成
- 工場見学・意見交換
- ・株式会社スリオンテック川崎工場にて実施

【平成18年度（第10回～12回）】

- 川崎市からの情報提供
- ・川崎市のP R T Rデータ
- ・川崎市の一般環境大気測定局の見学
川崎市の平成16年度P R T Rデータの解析（トルエン・キシレン）
市民・事業者への情報発信
- ・環境報告書を作るポイント・読むポイント
- ・こんな対話のスタイルはいかが？
- ・「リスクコミュニケーションを進める会」で実践したリスクコミュニケーション手法の整理
- 工場見学・意見交換
- ・三菱ふそうトラック・バス株式会社川崎製作所にて実施

【平成19年度（第13回～14回）】

- 川崎市からの情報提供
- ・川崎市のP R T Rデータ
リスクコミュニケーションの普及に向けたパンフレットの作成検討
- ・市民向けパンフレット
- ・事業者向けパンフレット

3 川崎市「化学物質と環境」セミナー

(1) 目的

市民向けセミナーは、市民に化学物質の排出実態、環境リスク、市や事業者における取組など化学物質に関する理解を深めてもらい、リスクコミュニケーションを推進すること、また、事業者向けセミナーは、事業者に化学物質の自主管理の取組を促進してもらい、リスクコミュニケーションを推進することを目的としている。

(2) これまでのセミナーの概要

市民及び事業者を対象とした化学物質と環境に関するセミナーを毎年開催し、化学物質の排出実態や環境リスク、事業者による化学物質管理やリスクコミュニケーションの取組事例、関係法令の動向、市の化学物質対策などの情報を提供している。また、平成18年度、19年度は市民向けセミナーにおいて、事業者が発行する環境報告書がリスクコミュニケーションの一つのツールとなることから、参加型の環境報告書を読むワークショップを開催した。

(3) 課題

市民向けセミナーにおける参加者が少なく、市民が関心をもつセミナーの企画が必要である。

(4) 開催実績

ア 市民向けセミナー

【平成16年度】参加者：37名

「市の化学物質問題への取組と市内における化学物質の排出状況について」(川崎市)

「事業所における化学物質の適正管理、排出削減対策等に関する事例」

「私たちの生活と化学物質」

【平成17年度】参加者：38名

「P R T Rデータからみる私たちの身のまわりの化学物質について」(川崎市)

「企業における化学物質対策の取組について」

「化学物質に関するリスクとその考え方について」

【平成18年度】参加者：23名

「環境報告書とは？」

ワークショップ「環境報告書を読もう」

【平成19年度】参加者：16名

「環境報告書とは？」

ワークショップ「環境報告書を読もう」

イ 事業者向けセミナー

【平成16年度】参加者：73名

「市の化学物質問題への取組と市内における化学物質の排出状況について」(川崎市)

「事業所における化学物質の適正管理、排出削減対策等に関する事例」

「化学物質に関するリスクコミュニケーションの必要性とその事例」

【平成17年度】参加者：60名

「化学物質の排出実態と自主管理の促進について」(川崎市)

「事業所におけるリスクコミュニケーションの取組事例」

【平成18年度】参加者：96名

「VOCの排出抑制の枠組みと市の取組について」(川崎市)

「P R T Rデータと環境データから見る化学物質の現状」(川崎市)

「化学物質と環境リスク」

【平成19年度】参加者：90名

「P R T Rデータと環境データから見る化学物質の現状」(川崎市)

「化学物質管理に関する国の動向」

4 神奈川県公害防止推進協議会（神奈川県、横浜市、川崎市）化学物質問題検討部会における取組（平成19年度）

(1) リスクコミュニケーションに関する事業者との情報交換会

ア 出席者 県モデルリスコミ実施事業者

- ・富士フィルム株式会社
- ・日産車体株式会社
- ・三共有機合成株式会社
- ・ガスター株式会社

化学物質アドバイザー、ファシリテーター

イ 内容

リスクコミュニケーションを実施した事業者と実施前の状況や実施の契機、準備段階の苦労、実施後の感想などについて情報交換を行った。

表2 事業者からの意見

リスコミの実施について
<ul style="list-style-type: none"> ・リスコミにはまだマイナスイメージがある。 ・リスコミ実施に対して恐怖心がある。 ・経営者にリスコミを実施するメリットを理解してもらう必要がある。 ・事故時など非常時に理解と協力が得やすくなることがリスコミ実施の動機であった。 ・行政の要請、支援があったためリスコミの実施に踏み切った。
リスコミを実施してよかったこと
<ul style="list-style-type: none"> ・会社の活動を理解してもらえた。 ・リスコミ実施後、地域住民とコミュニケーションが図れるようになった。 ・社内で評価された。 ・社員に地域の中で事業活動をしているという意識・視点が芽生えた。 ・社内では気付かなかった意見を聴くことができた。
化学物質に特化したコミュニケーションについて
<ul style="list-style-type: none"> ・環境保全全般、緊急時の対応などと比較すると化学物質管理についての市民の関心は高くない。 ・化学物質に特化することは、市民、事業者の立場からは違和感がある。
行政に対して
<ul style="list-style-type: none"> ・行政からの働きかけは、経営者の理解を得やすい。（リスコミ実施の理由になる。） ・行政主導で実施すると市民も参加しやすい。 ・行政が入ると全体的にやりやすくなる。 ・行政が作成する冊子について、その内容を説明するなどPRし、リスコミの下地作りが必要。 ・市民から地域の事業所をまとめてリスコミを実施してほしいとの意見があった。 ・工場見学などわかりやすいことから始めていけばよいのではないか。 ・リスコミのアンケートなどを実施した場合は結果を事業者に返すことが重要。事業者は他社と比較し競争するものなので、他社が実施していることが原動力になることもある。

(2) リスクコミュニケーションに関する講習会

ア 講演者 社団法人環境情報科学センター

イ 内容

PRTR大賞から見るリスクコミュニケーションの現状や事業者の取組事例の紹介。

(3) 冊子の作成

リスクコミュニケーションを実施した事業者による情報交換会の内容や、化管法が施行されて8年が経過した現在で、リスコミの意義や成果について「リスコミを実施するメリット」の観点からも含めて検証した内容等について取りまとめた。

5 これまでの取組でわかったこと

リスクコミュニケーションについて、現在においても事業者にとってマイナスのイメージや恐怖心があり、リスクコミュニケーションを実施するメリットを経営者に理解してもらうことが重要である。

リスクコミュニケーションを実施した事業者は、概ね実施してよかったとの感想である。

化学物質に特化したコミュニケーションについては、市民の関心とのギャップがある。(例えば、市民の関心は平常時の化学物質のリスクよりも災害時のハザードや騒音、臭気など環境対策全般に関心がある。)市民と事業者・行政との間に化学物質に関する情報の理解度にギャップがあるため、市民の化学物質に対する関心を高め、理解を深めていくことが不可欠である。

リスクコミュニケーションの実施に関して、行政からの働きかけやリスクコミュニケーションの場に同席するなどの支援は効果がある。

6 川崎市における課題

化学物質の排出量の多い事業所が臨海部に集中している。

- ・臨海部は工業専用地域であり、近隣に住民がいないため、事業者は平常時の化学物質管理についてのリスクコミュニケーションの必要性をあまり感じていない。現状市民からの要請が特になく(理由として、以前よりも環境が改善されていること、どこの事業所に問い合わせればよいかわからない、などが考えられる。)中で、事業者にリスクコミュニケーションを実施するメリットを示していく必要がある。

- ・周辺に同業種の事業所が多く、事業者は個別の事業所ごとにリスクコミュニケーションを行うことに抵抗がある。(市民の立場からも地域全体からの影響が関心となる。)

事業所が集中している臨海部に関しては、個別の事業所ごとではなく、地域全体または業種全体でのリスクコミュニケーションの推進を検討する必要がある。(J R C Cの地域対話などの事例はある。)

リスクコミュニケーションを進める会の メンバーからひとこと

この会に参加させていただき、漠然と感じていた化学物質への不安や事業者さんへの疑い(のmanaザシ?)など気持ちが少し楽になりました。また、この会の中で、事業者さんへ質問することを通して、より良く、より深くお互いが理解し合えていくことを感じました。

日常生活に密着した環境問題は、そのリスクに適切に対応して安心できるようにすることですが、そのためにはリスクに関する的確な情報を知ることがまず大切です。問題になっているアスベストのことも地域の配布資料やインターネットでの的確な対応を熟知して安心できるようにしましょう。

将来起こるかもしれない危険な事象に対して汚染予防の原則にのっとり関係者が相互に情報を要求、提供、説明をしあい、意見交換を行ってその危険を回避する手段としてのリスクコミュニケーション、特に市民主導のリスクコミュニケーションの広がりを期待したいと思います。

この活動を通じて、市民の方々・行政の方々との理解度が深まり、効果的なコミュニケーション方法を考える上で参考になることが、たくさんありました。また、事業者側として、工場見学会において、日頃の環境管理に関する取り組みの一端をご説明でき、またご理解していただけたことは、大変有意義でした。

知らないうちに化学物質の影響を受けてしまうのは問題。正しい情報を知ろうとする努力、知らせようとする努力の両方が必要だと思います。

環境をよくするために私たちには何ができるのでしょうか チェックしてみましょう

化学製品に関する情報ラベルを見て、買い物をする。

化学製品を使うときは、ラベルを見て正しく使う。

使用後の化学製品を捨てる時、決められた捨て方にしがって捨てる。

化学製品のこと、化学物質のこと不安になったら、自分で調べる。

調べる時は、さまざまな情報源をチェックする。

企業や行政に問合せをする。

企業や行政との話し合いの場に参加する。

この会の活動についてはホームページにも掲載しています。
さらに詳しく知りたい方はこちらを御覧ください。

http://www.city.kawasaki.jp/30/30kagaku/home/kagaku/risk_com/index.htm

問合せ先 川崎市環境局環境対策部企画指導課 電話 044-200-2532

身近な化学物質について、 日ごろこんなことが気になったことは ありませんか？

近所の工場からいつも
けむりが出ているけど、あれは何なのだろう。

洗剤や殺虫剤には
どんな化学物質が含まれて
いるのだろうか。

近所の道路は車がよく通るけれど、**排気ガス**は
大丈夫かしら。

近所の化学工場で事故が発生したけど、**健康影響**が
気になる。

気になるので詳しいことが知りたい。
そんなとき、あなたならどうしますか？

不安・疑問
を整理する。

情報を集める。

理解を深める。

具体的には？

ホームページや企業から取り寄せた環境報告書などを調べる。

区役所、図書館などのコーナーやホームページで、市や国の公表資料を調べる。

調べた内容についてわからないときは、企業・市・国に質問する。

企業などが開催する工場見学会、説明会に参加し、質問する。

市や国などが開催するセミナーなどに参加し、質問する。



不安・疑問を解決するためには、情報を集めて整理し、現状を知り、理解を深めることが大切です。
市民・企業・行政といった異なる立場の人たちの中で情報を共有して意思の疎通を図ることをリスクコミュニケーションと呼んでいます。

現在、川崎市では

「川崎市化学物質に関するリスクコミュニケーションを進める会」という会合を定期的実施してリスクコミュニケーションを進めていくために活動しています。なお、活動内容は川崎市のホームページに掲載しています。

http://www.city.kawasaki.jp/30/30kagaku/home/risk_com/index.htm

リスクコミュニケーションを進める会ではこんなことをやっています！！

この会は、市民、企業、行政といった立場の異なるメンバー同士が、化学物質に関する情報・意見交換、工場見学などを行い、それを通じてリスクコミュニケーションのあり方を模索しています。



市内企業の化学物質を取り扱っている施設を見学しました。

工場見学は目の前に実例を体感できて非常に良かったです。工場が日常から環境管理を決め細やかにやっていることが理解できました。

メンバー企業の環境報告書を読んで、環境報告書の読み方を勉強しました。

環境報告書から市民にとって必要な情報を抜き出し、わかりやすく解説、情報提供することが大切であると思いました。

<メンバー> (17人)
川崎市民6名、
川崎市内の企業5社
市役所職員5名、他



(川崎市の林千里さんの作品)

企業ではどのように化学物質を管理しているのかについて勉強しました。

一般市民が心配している問題について個別に説明が聞けて、企業の方々の誠意が伝わってきました。この会以外の場でもさらに広く伝える必要があります。



このパンフレットは川崎市内の区役所、市民館、図書館の資料コーナーに置いてあります。

化学物質の市民向けパンフレットを作成しました。

市民の方の意欲が高く、化学物質や環境にどのような興味・意見を持っているのかがわかりました。

それぞれの情報について、疑問点や意見など出し合い、お互いの考えていることについて理解を深めました。

知識がある・ないに関わらず、それぞれの立場の当事者が率直に意見交換できる場が大切であると実感しました。



KAWASAKI CITY

化学物質と環境について知ろう

—川崎市の化学物質排出量などから—



パンフレット作成にあたって

環境をよくするために、そして化学物質による環境汚染を減らしていくためには、私たちは何を知り、何をしていけばよいのでしょうか。このパンフレットは、それについて考えるきっかけになるように、市民や事業者の方の意見を取り入れながら作成しました。

■やさしくまとめたところ

- ・身の回りの化学物質にはどんなものがあり、出しすぎるとどうなるか。(2,3ページ)
- ・どんなところから化学物質が排出されるのか。(4,5ページ)

■やや難しいところ

- ・化学物質の排出量を知るには？川崎市ではどれくらい環境へ排出されているのか。(6,7ページ)
- ・人や動植物への影響はどう考えればいいのか。(8,9ページ)

■まとめ

- ・環境汚染を減らしていくには、市民、事業者、行政は何をしていけばいいのか。(10,11ページ)



私たちの身の回りには どんな化学物質があるのだろう？

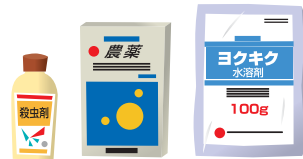
私たちの身の回りのものは、すべて化学物質でできています。
そのなかでもたくさんの化学物質がその性質をいかして、
さまざまなものに利用されています。

食料品



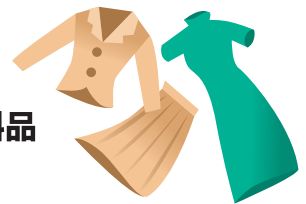
安息香酸、食用赤色2号など
(食品添加物)
残留微量化学物質

農薬・殺虫剤・肥料



パラジクロロベンゼン、フェントロチオンなど

衣料品



ナイロン・ポリエステルなど(化学繊維)
テトラクロロエチレンなど
(ドライクリーニング)

自動車



ベンゼン、トルエンなど
(燃料)



私たちの暮らしの中にある 主な化学物質



化粧品や洗剤

ヘキサクロロフェン
パラベンなど(殺菌剤・防腐剤)
LASなど(界面活性剤)



家電製品



PBDE(難燃剤)
アルミニウム、
鉄など(金属類)

医薬品



アセトアミノフェン
イブプロフェンなど

塗料・接着剤



トルエン、キシレン
酢酸ビニル、ホルムアルデヒドなど(溶剤)

私たちの身の回りのものは、すべて化学物質
でできています。人間の体をつくる骨や筋肉も、
カルシウムやタンパク質などのいろいろな化学
物質が集まって、それぞれのもつ性質をいかし
て役割を果たしています。

また、人はこれまでに、化学物質のもつ特長
をいかしていろいろな目的に使用したり、さら
に目的とする特長をもった新しい化学物質を作
り出したりして、生活を便利で豊かなものにし

てきました。

ペンキや絵の具などの塗料、食器や容器など
に使われるプラスチック、洗剤、農薬や医薬品、
化粧品にいたるまで、すべて生活を豊かにする
ために使われている化学物質です。

このように、それぞれの特長をいかして、原
料や製品などいろいろな形で身の回りで使われ
ている化学物質の数は、今では約5万種類とい
われています。

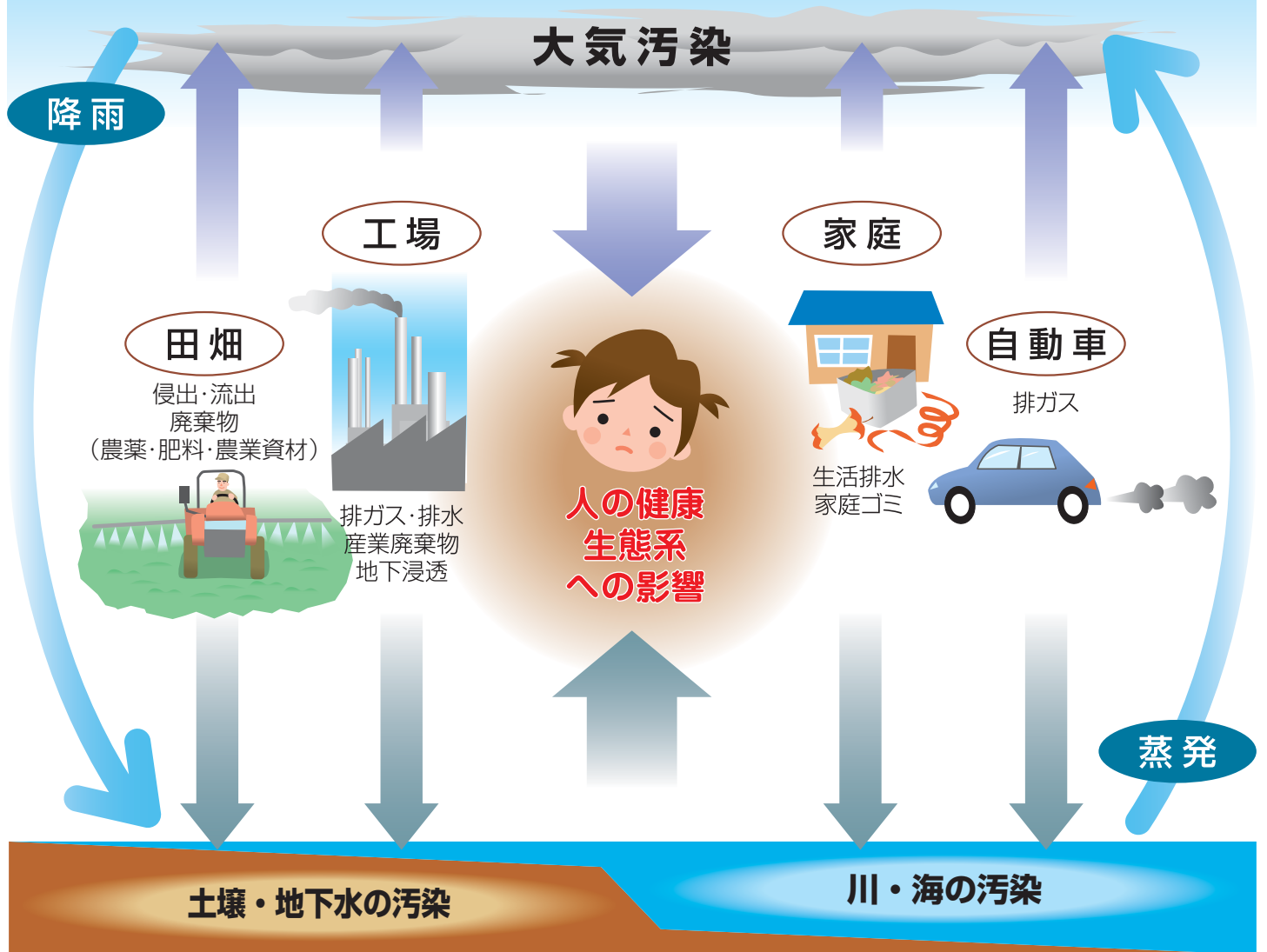


身の回りにある製品にはどんな化学物質が使われているのか、
ラベルを見てみよう。



化学物質を出しすぎるとどうなるんだろう？

化学物質はさまざまな道筋をたどって環境中へ出ていきます。
環境を汚染する経路を見てみましょう。



環境汚染の経路と発生源

化学物質によって、私たちのくらしは豊かで便利なものになってきましたが、一方で、それらの中には、環境中に排出されると、環境汚染を引き起こすものもあります。

化学物質は、製造や使用、廃棄することによ

って、大気中、川や海などの、水の中、土の中などへ排出されます。また、事故などによって一度に大量に放出される場合もあります。化学物質を環境中に出しすぎると空気が汚れ、人や動植物が住みにくい環境になってしまいます。



身の周りの環境の汚れのようすを市役所などに聞いてみよう。